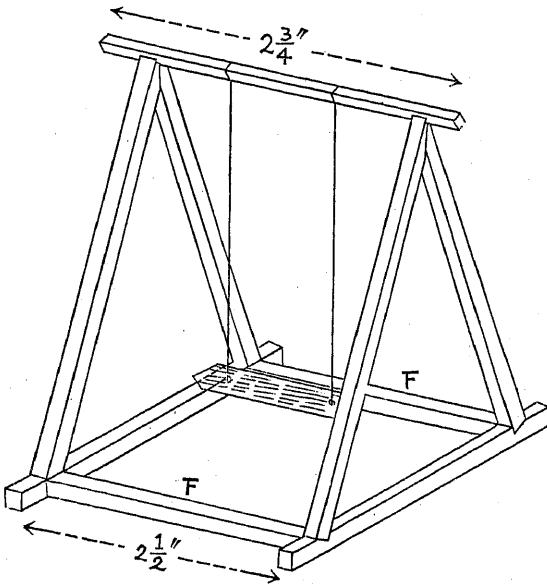
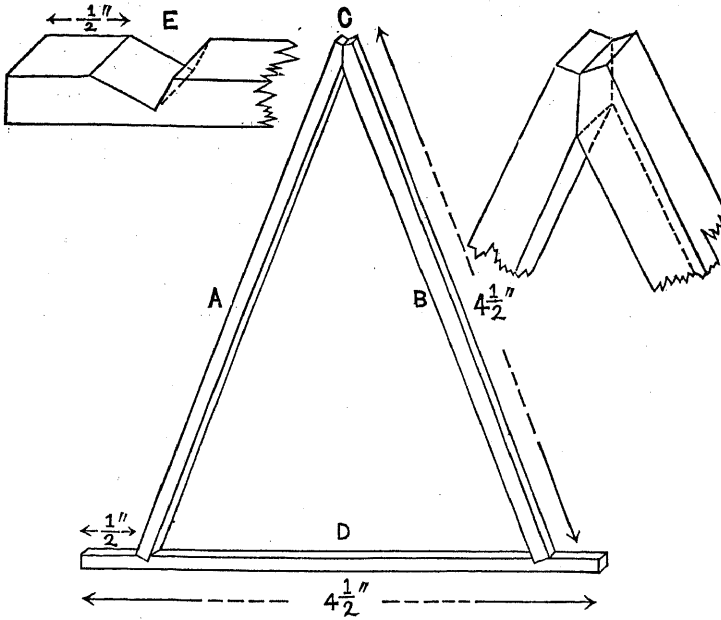


家庭教育 手工應用 玩具の造り方

第三十二圖 ぶらんこ(其の二)



藤 五代 策 譯

燐寸棒長 h_{11} のもの六本を切り、其中の二本(A

及B)を取りて机上に二等邊三角形の形に並べ、底邊になる所を o_{11} だけ明けて置く。此の二本の棒の頂端の互に相合ふ所即ちCを圖の如く少しく削りて膠でピタリと付ける。次にDなる棒を造りて、其の各々の端より h_{12} を隔てた所に刻みを付けて之にA及Bの端をキチンと嵌める(刻みの付け方はE圖を参照)。

右と同じものを今一つ造つて、兩側の支柱とするのである。

膠が奇麗に乾いたならば、Fなる h_{13} の燐寸棒を二本切りて圖に示す位置に付け、今一本 h_{14} のを造りて兩側の支柱の頂端の凹んだ所に斜に嵌める。

平板を長 l_{11} 、幅 b_{11} に裁ちて、四隅を落し、兩端から h_{15} を隔てた所に孔を穿ち、此の孔に絲を通して其の兩端を上方なる横木に結び付けるのである。關節には留針を叩き込む必要がある。

第三十三圖 臂掛椅子

脊になる部分は平板を長 h_{21} 、幅 b_{21} に裁ちて、其上端のAなる陰影にて示せる部分を切り去る。燐寸棒 h_{22} のもの二本を切りて圖のBに示せる場所を附着し、次にCなる棒を造りてBとBとの上端と水平になる様に付ける。

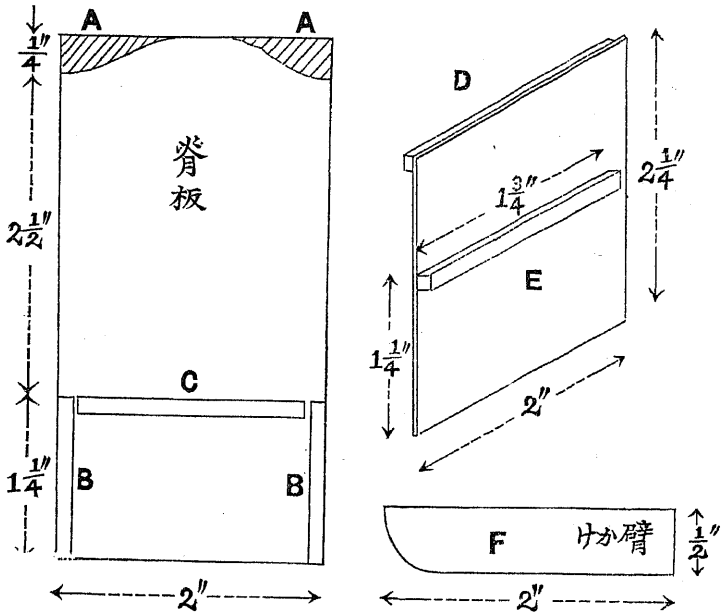
兩側になる部分には平板を長 h_{23} 、幅 b_{23} に裁ちたるものを二枚用ふ。一寸注意して置かねばならぬ事は、此の二枚の板は全く同じものではあるけれども、一枚は右手に當てがひ一枚は左手に當てがふ様に造らねばならぬことである。此の圖は右手の場合を示したものでなり。

そこで燐寸棒 h_{24} のものを二本造りて左右の板の外側の上端Dに付ける。今度は h_{25} のを二本造りて、内側の下端から h_{26} 隔りたる所に付ける。之は腰掛板の支へ木になるのである。

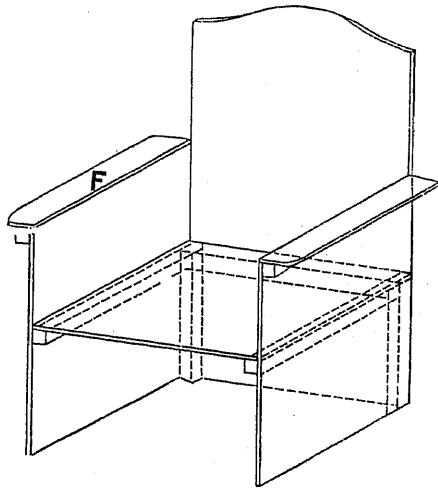
兩側の板が出来上つたら、之を注意して脊板に取り付ける。腰掛の部分として平板を h_{27} 平方に裁

ちて、兩側のE及脊のCなる支へ木の上面に膠を塗りて、此の平板を堅く附けるのである。

次に平板を長 $2\frac{1}{2}$ 幅 $1\frac{1}{2}$ に裁ちたるものを二枚造り



てF圖の如く其の一端を丸く削りて臂かけに用ふるのである。



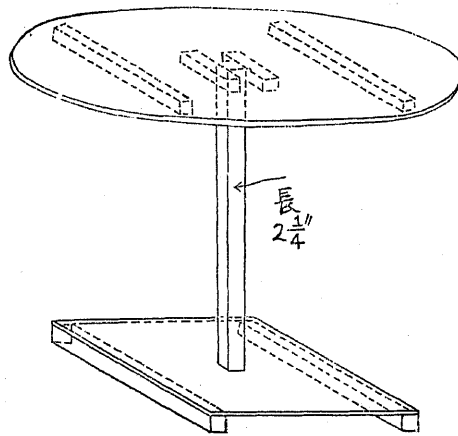
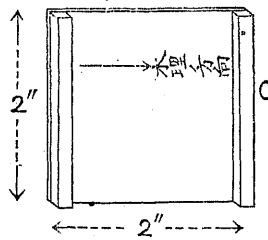
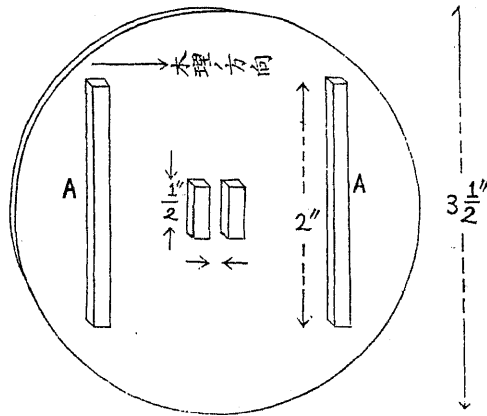
腰掛板ハ2平方

第三十四圖

丸卓子まるこし

第一に丸板から先きに始める。コンパスを以てに開きて平板の上に圓を描き、之を缺にて奇麗に切り抜く。隣寸棒長 $3\frac{1}{2}$ のものを二本切りて丸板の

隣寸棒一本の幅と同じである。臺の部分は、平板を以て平方に裁ち木理の切口に沿ふてC圖に示せる如く長 $2\frac{1}{4}$ の棒を兩側に付ける



裏面Aの位置に木理を横切りて付ける。之は何の用をなすかと云ふに、第一、板の曲らぬ爲め第二木理の裂けない用心である。尙ほ裏面の中央にBなる長 $2\frac{1}{2}$ のもの二本を造りて付ける、其の間隔は

之が出来たならば臺の中心を求めて、此の點に長 $2\frac{1}{4}$ の脚を建て、又其の脚の上端をBとBとの間に膠を付けて挿入するのである。此の脚の上端及下端は留針で留めること。